

ときめき人

Tokimeki bito



「明治村」に平成のアイデア古里に新しい風吹かせる

登米町・三日町
角田 雄一郎さん

かくた・ゆういちろう
1987年生まれ

Profile

登米町出身。佐沼高卒業後、関東の大学で経営学を学ぶ。卒業後は、そのまま関東の小売会社へ就職。3年間勤務した後、家業の布団店を継ぐためUターンした。父、母、妹と4人家族。



とよま脱出ゲームスタッフのみなさん。衣装を変え参加者とともに非日常感を楽しむ

現在、みやぎの明治村「とよま脱出ゲーム」の実行委員長を務めている角田さん。「とよま脱出ゲーム」は、14年10月から油麩井の会(海老名康和会長)のメンバーが中心となり動き始めた。登米町は東日本大震災後、観光客が激減。海老名会長やメンバーは危機感を抱いた。「このままでは登米の観光事業が終わるかもしれない」。

そこで、登米町の魅力を発信しつつ、集客できるものとして考えたのが脱出ゲーム。仕掛けられたヒントをもとに謎を解き、鍵を手に入れ、制限時間内に、脱出を試みる非現実的体感型イベントだ。開催のたびに参加者が増え、現在は日本人だけでなく外国人の参加者も増えている。

この企画の中心メンバーが角田さんだ。高校卒業後、関東の大学に進学。そのまま関東で3年間

仕事をしUターンした。7年間地元を離れ、それまで気付かなかった魅力が見えてきた。「ここには、藩政から明治までの歴史的建築物が混在している。ほかでは見られない登米だけのもの。これを使わない手はないと思った」と角田さんが感じる登米の魅力を語る。

ゲームのヒントやキーワードは、登米の町並みや教育資料館などを活用。ゲームと観光を同時に楽しめる内容にしている。また、あるものだけではなく、最新の映像技術を使うなど、新たな取り組みが参加者の人気を得ている。

「見せ方を少し変えただけで、全く違うものになる」。今後は、外国人客に比重を置いた集客に取り組んでいく。常に前向きなリーダーの頭の中には、愛する古里の新しい風景が広がっている。

編集後記

▼今年もドリーム☆キッズの取材に。素晴らしい舞台だった。子どもたちの演技、歌や踊りは躍動感にあふれまぶしかった。たくさんの元気をもらった。この表舞台も裏方の支えがあつてこそ。舞台裏でもみんなが頑張っていた。自分たち広報担当も皆さんの活躍をしっかり伝えたい。(及川)

▼取材で道の駅みなみかたにお邪魔しました。加工品や惣菜など人気商品やおススメ商品、また果物も聞いているうちに食べてみたくなるものばかり。後日おいしくいただきました。食欲の秋、市内の道の駅巡りをするのもいいですね。(千葉)

▼10月10日、登米市スポーツまつりの取材に行ってきました。大勢の人が参加し、ウォーキングなどのスポーツを楽しんでいました。その中には元気なお年寄りの姿もありました。何歳になっても健康で過ごしたいとは誰しも思うこと。運動の大切さをあらためて認識しました。(田代)



モバイルとめ
(携帯電話版ホームページ)
<http://www.city.tome.miyagi.jp/m/>



登米市メール配信サービス
(防犯や防災、イベント・市政に関する情報をメールでお届けします。)
<http://tomecity.mail-dpt.jp/>